

船舶関連事業を持続可能にするための 小型船舶向け自律航行技術の『更なる実装展開』を目指す



採択事業者名 株式会社エイトノット

コンソーシアム構成員 株式会社しまなみ

勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	21	実施回数の累計	1
参加人数の ユニーク累計	93	参加人数の ユニーク累計	35

代表的な実施事例

狙いとゴール	愛媛県内外への事例発信や近隣事業者への自律航行船の機能理解を促し、次年度以降に向けた横展開に繋がる関係を構築する。
実施の成果	乗船体験会を開催し、報道関係8社11名、海事関連事業者11社25名にご参加いただいた。
実施アジェンダ 協議内容	事業・自律航行の機能説明、体験乗船を実施。 乗船後はアンケート調査や質疑応答を交えた。
参加者の一例	メディア（日本経済新聞、愛媛新聞、NHK、南海放送、テレビ愛媛） 海事関係者（造船/船用機器メーカー/舟運事業者など）
次年度以降の 想定アクション	実装先事業者への提供価値を高めるため、航行ルート拡大等の対応を実施。愛媛県内及び周辺自治体での自律航行船舶の活用方法を検討。来場された事業者を含め継続的なディスカッションを行い、システム実装先拡大を目指す。



データ活用・協議の具体例

重要指標例	データ活用・協議の具体例	
	・自律航行システムを搭載することで、売上向上もしくはコスト削減が期待できるか ・自律航行して運航する際の安全性、乗り心地、操作性	
	実装前	実装後
	データ取得 ・船長の経験と勘に依存した操船	・AIが最適なルートを提案し、自律的に操船 ・他船や障害物も自動で回避
	データ活用 ・船長へのヒアリングにより情報蓄積	・航行時の画像データ等から、他船や障害物の検知率を向上
	実行 ・自社内での研修、OJT実施	・操船中の船長への負荷軽減 ・目視による見張りをシステムがサポートすることで安全性向上
	業務反映 ・船員不足から研修、OJT期間が十分に取れない	・自律航行可能なルートの拡大 ・自律航行時の乗り心地に関する協議

代表的な実施事例

国内有数の操船高難易度海域にて、自律航行航行を活用し、通常の遊覧ルートの内、10%の自律化を実現。手動操船時にも各種センサーの他船障害物情報の表示などを通じて、安全性向上に寄与。